Infectious Diseases Weekly Report
iDWR HIROSHIMA City
2015年第43週（10月19日～10月25日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

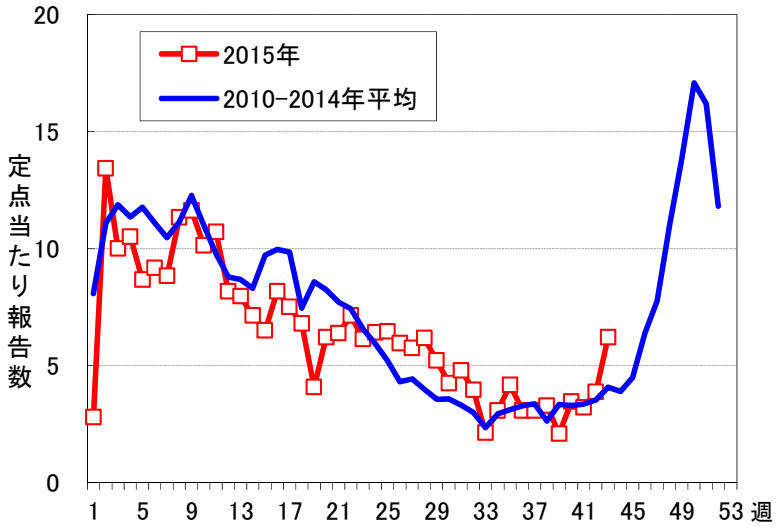
■コメント

1．感染性胃腸炎
定点当たり6.21人と、前週と比べて約1.6倍に増加しました。
例年冬季はウイルス性の感染性胃腸炎が増加し、特に晩秋から年末ころにかけてはノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎が多くなります。手洗いの励行など感染予防対策を心がけましょう。

2．A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点当たり3.21人と、前週と比べて約2.1倍に増加し、例年同時期と比べて多い状態となっています。

3．つつが虫病
今年初めて1件の報告がありました。（次頁参照）

感染性胃腸炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況（週報対象）

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号
フルエンザ	インフルエンザ	－	－	0.04	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.25	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	77	3.21	1.03	↑
小児科	感染性胃腸炎	149	6.21	4.07	↗
小児科	水痘	8	0.33	0.65	
小児科	手足口病	19	0.79	0.53	↘
小児科	伝染性紅斑	9	0.38	0.06	
小児科	突発性発しん	10	0.42	0.55	
小児科	百日咳	2	0.08	0.15	
小児科	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.10	
小児科	流行性耳下腺炎	46	1.92	0.54	⇗
小児科	RSウイルス感染症	36	1.50	0.60	⇘
眼科	急性出血性結膜炎	－	－	0.03	
眼科	流行性角結膜炎	5	0.63	0.55	
基幹	細菌性髄膜炎	－	－	－	
基幹	無菌性髄膜炎	－	－	0.09	
基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.49	
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	－	－	－	
基幹	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.14	／	

急増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗ ↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	⇗ ⇘	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	⇨	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	126	男性（10歳未満）・1人、女性（20歳代）・1人、男性（80歳代）・1人、女性（80歳代）・1人
4	A型肝炎	1	9	男性（50歳代）
4	つつが虫病	1	1	女性（60歳代）
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	21	男性（60歳代）・1人、男性（80歳代）・1人

■定点把握感染症報告状況（週報対象）の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）
報告数	広島市	第39週	－	5	30	50	2	82	11	7	7	8	39	24	－	20	－	－	2	－	－
		第40週	－	5	40	83	5	71	10	12	2	8	51	28	1	10	－	1	2	－	－
		第41週	1	4	54	77	1	64	11	13	－	9	39	50	－	10	－	－	2	－	－
		第42週	1	8	37	93	6	35	8	13	－	1	39	40	－	6	－	－	3	－	－
		第43週	－	6	77	149	8	19	9	10	2	2	46	36	－	5	－	－	1	－	1
定点当たり	広島市	第39週	－	0.21	1.25	2.08	0.08	3.42	0.46	0.29	0.29	0.33	1.63	1.00	－	2.50	－	－	0.29	－	－
		第40週	－	0.21	1.67	3.46	0.21	2.96	0.42	0.50	0.08	0.33	2.13	1.17	0.13	1.25	－	0.14	0.29	－	－
		第41週	0.03	0.17	2.25	3.21	0.04	2.67	0.46	0.54	－	0.38	1.63	2.08	－	1.25	－	－	0.29	－	－
		第42週	0.03	0.33	1.54	3.88	0.25	1.46	0.33	0.54	－	0.04	1.63	1.67	－	0.75	－	－	0.43	－	－
		第43週	－	0.25	3.21	6.21	0.33	0.79	0.38	0.42	0.08	0.08	1.92	1.50	－	0.63	－	－	0.14	－	0.14
	全国	第41週	0.06	0.25	1.80	3.25	0.27	1.73	0.44	0.48	0.02	0.27	0.58	1.18	0.01	0.91	0.02	0.04	0.68	0.03	0.02
		第42週	0.08	0.26	1.72	3.30	0.33	1.09	0.40	0.46	0.02	0.14	0.56	1.22	0.01	0.81	0.01	0.04	0.61	0.01	0.02

■新たに判明した病原体検出状況

（検査：広島市衛生研究所）

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
流行性耳下腺炎	発熱(40.0) 髄膜炎 唾液腺腫脹 熱性痙攣	6	男	2015/09/07	髄液	ﾑﾝﾌﾟｽｳｲﾙｽ
RSウイルス感染症	発熱(40.0) 気管支炎 肺炎 リンパ節腫脹	2	男	2015/09/06	咽頭拭い液	RSｳｲﾙｽ
無菌性髄膜炎	発熱(38.5) 髄膜炎	8	男	2015/08/09	咽頭拭い液 髄液 糞便	ｴｺｰｳｲﾙｽ18型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.7)	0	男	2015/09/04	咽頭拭い液 糞便	ｴｺｰｳｲﾙｽ18型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.2)	0	女	2015/09/09	咽頭拭い液 糞便	ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽB4型
その他の呼吸器疾患	上気道炎 下気道炎	不明	男	2015/09/16	咽頭拭い液	ｴﾝﾃﾛｳｲﾙｽ68型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 気管支炎 肺炎	7	男	2015/09/12	鼻汁	ﾗｲﾉｳｲﾙｽ
その他の呼吸器疾患	上気道炎	11	男	2015/09/13	咽頭拭い液	ｴﾝﾃﾛｳｲﾙｽ68型

＊感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニに注意しましょう
－つつが虫病／日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群（SFTS）－

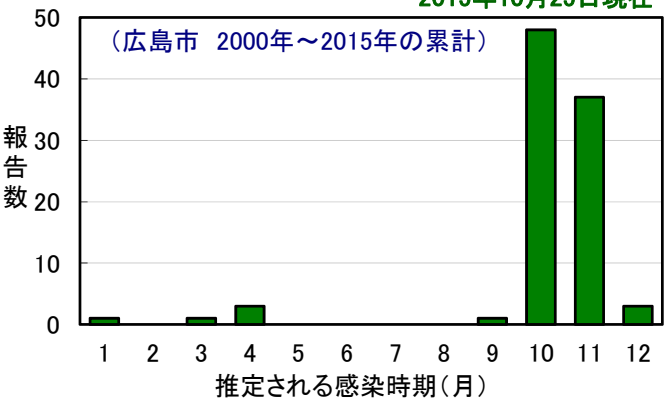
つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ（ダニの一種）に吸着されることにより感染する感染症で、5～14日程度の潜伏期間を経て発症します。症状の主な特徴は発熱・発しんで、ダニの刺し口が見られることもあります。

左のグラフは、2000年～2015年のつつが虫病の届出121件のうち、感染時期の記載のあった94件について感染月別に集計したものです。ほとんどが10月から11月の間に感染しており、この時期は特に注意する必要があります。

このほかに、日本紅斑熱やSFTSも、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくしダニの付着を防ぐ、また屋外活動後はすぐに入浴し、ダニが付着していないかチェックするなどの対策をとることが重要です。

つつが虫病の感染月別報告数（2000年以降累計）
2015年10月25日現在



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp